

せとうちちょう 議会だより

第147号

平成24年11月発行

発行／鹿児島県瀬戸内町議会 編集／議会報編集委員会 〒894-1592 鹿児島県大島郡瀬戸内町古仁屋船津 23 番地



議長
文俊

私達瀬戸内町議会（第15期）による最後の「議会だより」となりました。振り返ってみますと、4年前議員定数を18名から10名へと減らし、議場も本場に淋しい思いが致しました。この4年間少ない議席から色々と議論が交わされてきました。

私事ではございますが、3期12年、そして、最後の4年間は、皆様方のお力添えを頂きながら、議長の職を全うする事ができました。

これから、一町民として町発展の為に微力ではありますが、応援していきたいと思えます。

また、今回激戦を制して当選されました10名の議員の皆様におかれましては、町政発展の為に力を合わせ、町当局に対しては、一歩離れて二歩離れずの基本路線を崩す事なく、躍動する議会、そして町民に信頼される議会を目指して頑張ってください。

4年間ありがとうございました。

こんなことを決めました

第3回定例会は、9月6日～20日までの15日間の日程で開かれ、決算議案11件、補正予算議案10件、条例議案2件、契約議案2件、人事同意議案2件、その他議案4件の計31件の議案を審議し、それぞれ可決しました。

また、平成23年度各会計決算議案については、議長と議会代表監査員を除く8名で構成する決算審査特別委員会（委員長 向野 忍、副委員長 鎌田愛人）を設置して審査を行い、最終日に委員長から審査報告がなされ、意見書を町当局へ提出しました。（次頁に意見書掲載。なお、各会計決算額状況については町広報誌に掲載のため、割愛しました。）

主な議案の要旨は次のとおりです。

人権擁護委員に

嘉原 篤己氏

教育委員会委員に

榮 小知子氏

一般会計補正予算 (第3号)

住宅リフォームに補助

主な内容は、住宅リフォーム等経済対策事業として300万円（住宅リフォームを行った場合工事が50万円以上で10万円の補助）、ヤギ被害防除対策に47万1千円、辺地共聴施設整備として843万円、財政調整基金積立金3億7203万7千円、特別会計赤字補てんとして国民健康保険会計に1億円、巡回診療施設会計に2000万円、船舶交通事業会計に3000万円の繰出し、公共土木施設災害復旧費として1億4000万円等を追加するものです。

総額7億1076万5千円を追加しました。

寄り合い処せとうち 設置及び管理条例の 制定

町民の憩いの場所として旧昂学習塾跡地（古仁屋大湊地区）に寄り合い処せとうちを開所することに伴う条例の制定です。

集落集会施設等整備 事業分担金徴収条例 の制定

集落集会施設等の整備に伴う分担金の徴収条例です。主な内容は、新築においては、事業経費の8分の1以内、改築修繕等においては、費用が10万円を超えた場合は2分の1以内を利益を受ける集落から、分担金として徴収するものです。

町道網野子節子線道 路改良工事（1工区） 契約

主な工事内容は、道路改良延長11118m、舗装工11751㎡、落石防護柵工1157m、ガードレール設置工1192m等で（株）泰江組と6736万8千円で契約しました。

消防ポンプ自動車 (CD-1型) 売買 契約

町消防団（古仁屋地区）に配備するもので（株）鹿児島消防防災と1986万6千円で契約しました。

災害時のライフライン確保に万全な対策など

-10項目に亘る意見を町当局へ提出-

1. 災害時におけるライフラインの確保を図るため、関係機関と協力協定を結ぶなど万全の対策を講じられたい。
2. 自主財源の確保を図るために、町有地等の未利用地の早期売却、貸付等を積極的に進められるとともに、新たな目的税等の導入に向けて努力されたい。
3. 繰出金に委ねることなく、特別会計の独立採算制に基づいた経営健全化に努められたい。
4. 国・県からの各種雇用経済対策交付金の使途については、将来において自立可能な雇用創出等が図られる事業に活用し、地場産業の育成に努められたい。
5. 景気対策・地域経済の活性化を図るため、更なる公共事業の導入と企業が新たな産業へシフトできるような情報提供等に特段の努力をされたい。
6. イノシシ、カラス等の捕獲奨励金を増額し、駆除の徹底を図られたい。
7. 町内のデイゴは危機的状況にある。観光資源保護のためにもデイゴヒメコバチ撲滅の徹底（樹幹注入等による）を図られたい。
8. 我が町の沿岸漁業の衰退ぶりは、近年著しいものがある。漁業従事者の後継者育成、種苗の存続、燃油の直接補助を含めた各種補助事業、支援事業の充実を図られたい。
9. 町民の健康増進とスポーツ振興を図るとともに、競技力向上のため体育施設整備の充実が努められたい。
10. 給食センター及び火葬場の早期建設に向けて取り組まれたい。

一般質問

第3回（9月）定例会で

は、9名の議員が町政全般に亘り、質問・提言を行ない議論を交わしました。

一部を要約して、紹介いたします。

一般質問の詳細については町立図書館にて「会議録」をご覧ください。

（なお、岩井義照議員につきましては、本人の申し出により、記事を掲載していません。）



林 健二議員

議員 防災について

災害時におけるブロードバンド環境の確保のため、名

瀬く住用間のインタラを借り受けできるよう、奄美市と「災害時における協力協定」を結びべきと考えますが町長の見解を求めます。

町長 この度の台風による

道路災害により、インターネットが数日ストップしましたので、そのバックアップとして、奄美市のインタラ活用について、市側と協議検討してみたいと思います。

議員 行財政改革について

新たな歳入確保対策について、新たな施策があればお聞かせ下さい。

町長 車検切れ（廃車）の消

防車である梯子車・タンク車をインターネットを利用し、オークションにかけ売却しました。

【議員】 少子化対策と子育て支援について

妊婦検診や出産等にかかる、旅費の補助拡充はできないかお尋ねします。

【町長】 補助の拡充につきましても、今後の検討課題にしたいと思います。

【議員】 障がい者福祉について

障がい児に関する相談、療育に関する相談等の窓口として、本町にケースワーカーを配置できないかお尋ねします。

【町長】 ケースカンファレンスや親子教室などを通して発達相談を行っておりますので、現在のところケースワーカーの配置は必要ないものと考えております。

【議員】 フェリーかけろま

【議員】 自動車の送料(軽自動車)の割引について

軽自動車に限って割引き制度を設け、運賃の一部助成を行う事により、車両航送台数の増が期待できると考えますが、町長の見解を求めます。

【町長】 運賃の改定や割引き制度の導入につきましては、影響と効果について調査し、最良と判断できましたら、根拠を整理し、国・県と協議して参りたいと考えております。

【議員】 加計呂麻の中学校の統合について

加計呂麻島の中学校の統合について、これまで同様に統合の必要性を感じていますが、現時点における教育長のお考えをお聞かせ下さい。

【教育長】

改めて加計呂麻地

区中学校の統合について、諸鈍校区に対する明確な打開策もないままで、推進することは出来ないと考えているところであります。



安 和弘議員

【議員】 農業振興について

零細農家が、希望の持てる農業をしていくために、町としての様なバックアップ、いわゆる、支援策が考えられるのか伺います。

【町長】 農家の支援策として、各研修会への参加を促し栽培技術の習得や営農相談等を実施し、農業所

のも現状であります。

【議員】 災害対策について

昨年、一昨年の豪雨災害被災地の対応はどのようになっていたのか、伺います。

【町長】 災害被災地の対応ですが、22年災は全て完了し、現在23年災は91%が発注済で復旧に取り組んでいる所です。

「伊須」地区につきましても、度重なる浸水被害の打開策として、昨年度末に全体的な「予備設計」を行い、これを踏まえ今年度改善に向けた「詳細設計」を終え、先日「実施に向けた地元説明会」を行い、特に用地取得への協力をお願いしたところであります。

「節子川上流」は、公共土木施設災害査定を終了し、発注へ向け準備を進めてお

※その他の質問

- ◇台風15号の被害について
- ◇町独自の「育児助成金」について
- ◇健康増進事業について
- ◇古高存続について

得が向上するように努めております。また、本町の農業振興方針は、重点品目として位置づけされている力ボチャ・タンカン・パッションフルーツ・肉用牛・サトウキビの品質向上と生産額増大を推進しております。さらに、担い手農家とエコファーマー育成に努め、本町の中核農家として自立できる人材の育成に努めております。

近年は農業従事者の高齢化が進行する中、各地域で重点品目以外の農業経営を営んでいる方々や様々な理由により、規模拡大ができない農家の方々が多数いる

ります。

「孤立した嘉入、須子茂、阿多地」地区につきましては、集落への連絡道、町道2路線12箇所中（11箇所）・林道2路線7箇所全てを発注し、復旧に取り組んでいる所です。

「町道高丘北線」につきましては、抜本的改善には至っておりませんが、破損路面の復旧、排水施設の改善・清掃等維持管理に努めております。



向野 忍議員

議員 国の出先機関改革について

8月20日、本町を含む奄美大島の5市町村と国交省九州地方整備局は「大規模災

害時応援協定」を締結した。その内容等について伺います。

町長 協定書の応援内容は、次の5つの事項の実施に係る資機材及び職員の応援に関することとなっております。

- ① 所管施設の被害状況の把握
- ② 情報連絡網の構築
- ③ 現地情報連絡員の派遣
- ④ 災害心急措置
- ⑤ その他必要と認められる事項。

議員 市街地の活性化について

本町のメインストリートにある「旧ライブストーン奄美」、「旧よしおか」等の再生・利活用は考えられないか伺います。

町長 いずれも個人の所有

であり、再生・利活用については、慎重にあらゆる角度から調査研究する必要があります。

市街地の活性化等においては、総務省の「中心市街地再活性化特別対策事業」等の適用について調査検討してみたいと思います。

議員 「六次産業化」の取組について

沖縄県石垣市では、市が管理する「石垣市パイヤ研究所」と農家が連携し、「パイヤ」の安定生産、製品開発、市場調査、販売戦略等に積極的に取組んでいる。本町も独自の農林水産物を絞り込み「六次産業化」に取組むべきと思うが町長の見解を伺います。

町長 本町の主要作物のパッションフルーツとタンカンにつきましては、付加価値

をつけた商品開発を検討したいと考えています。

また、地域経済活性化のためにも、独自の農林水産物を絞り込み農家と連携を取りながら、新商品の開発等に取組みたいと考えております。

議員 雇用対策について

奄美市では地元での就職の促進、雇用の確保を目的とした「高卒ルーキー雇用奨励補助事業」、「地域産業雇用奨励サポート事業」等の雇用対策事業に取組んでいる。本町も若者の雇用の場を確保し、人口流出を止めるためにも独自の事業導入を図るべきと思うが町長の見解を伺います。

町長 これまで国・県の制度のもとで緊急雇用対策事業等を実施して参りました。

独自の事業導入となりますと財源確保についても、かなり厳しいものがあります。事業実施するにあたっては有利な補助事業、起債事業が適応できるものがないのか、奄美市の雇用対策事業の成果等についても調査研究を行い、又、独自の事業導入について調査して参りたいと思います。



中村義隆議員

議員 観光振興について

あまみシマ博覧会では、加計呂麻島プログラムも瀬戸内町一色単にしてありますが、奄美群島5島ではなく6島の位置付けで加計呂麻島・請島・与路島の枠を

設けてはどうでしょうか伺います。

町長 現在3島からのメニュー提供者が少ないこともあり島毎には掲載しておりませんが、事務局と協議し、加計呂麻島・請島・与路島の枠を設けるようお願いいたします。

議員 町民の健康増進について

町における特定健診の受診の現状及び受診率向上の対策はどうか伺います。

町長 本町における特定健診の受診率につきましては、平成21年度26.3%、22年度29.8%、23年度23.6%となっており、国が示す24年度の目標受診率65%には程遠い現状であります。

議員 教育行政について

1. 2020年に鹿児島国体開催予定であります。8年後を見据えた地元国体選手の育成、シニアスポーツ普及事業の取り組みなどのお考えはないでしょうか伺います。

教育長 現在の小学校5、6年生が、平成32年になると二十歳前後と言いつことなりますが、町としましては、県からの指導を仰ぎながら、各市町村並びに体協等関係団体と連携を取りながら、地元選手の育成強化に努めていかなければならないと考えております。

議員 2. 古仁屋高校存続について、今の古仁屋高校を魅力ある高校にしなければなりません。まず一つの魅力として、在学中に取れる資

格検定受験料や模擬試験料などの助成はできないでしょうか伺います。

教育長 8月に発足いたしました「鹿児島県立古仁屋高等学校振興対策協議会」



岡田弘通議員

議員 人口減少の対策について

1. 定住対策(仮称)条例の制定の時期を具体的に示していただきたい。

町長、企画課長 定住対策条例の制定等については、現在、他町村の事例等を調査し、これらの成果や実施にあたっての財源等の確保

の中で、新たな支援策も含め、協議・検討がなされま。議員提案の資格検定料及び模擬試験料の補助についても協議会の中で検討してまいりたいと考えております。

等についても勘案しながら検討しているところであり。来年度中に制定したいと考えております。

議員 2. 古仁屋高校の存続活性化を図るため、町として抜本的な施策を講ずるべきと思うが、町長の考えを伺います。

町長 古仁屋高校の存続及び振興・発展を支援することとは、本町の最重要施策の一つであると考えております。

このことから、「鹿児島県立古仁屋高等学校振興対策

協議会」を8月に発足させ、存続及び振興発展について、協議・検討を深め、今後の抜本的な施策を講じていきたいと考えております。

議員 3. 小中学校の存続対策についても併行して取り組むべきと思うがどうか。また、加計呂麻島の小中学校に適用している親子留学制度について、本町全小中学校に適用する制度にすべきと思うが、教育長の考えを伺います。

教育長 小中学校の存続対策につきましては、児童生徒数の減少が顕著であり、学校存続が危惧されるところであります。

根本的要因は少子化でありますが、保護者の就職の問題もあろうかと思われま。ですので、地元での雇用確保対策の促進及び校区外就学

の弾力化や親子留学制度等の支援策を講じるなど、対策に努力してまいります。

「加計呂麻留学制度」につきましては、現在中学生1名が利用していますが、この制度を本町の小中学校全てに適用するのか、存続が危ぶまれている地区を優先的に適用して段階的に広げるべきか検討してまいりたいと思います。

議員 農・畜産の振興について

① 台風等に強いハウス施設を設置すべきと思うが考えを伺います。

② 6次産業に向けて、果樹等の製造・加工・販売等を兼ねた施設設置を検討すべきと思うが考えを伺います。
③ 畜産の生産販売状況と今後の振興対策について伺います。

町長 ① 強いハウスにつ

きましては、大島支庁農政普及課と再三協議を重ね、24年度からは補強型ハウス導入ができるようになりましたので、今後は農家の要望に沿う補助事業を推進して参りたいと考えています。

② 付加価値をつけた商品開発を行なう上からも、加工・販売施設の設置は必

要だと認識しております。

③ 肉用牛の23年度販売実績は、約1億5500万円であります。今後の対策は、有利な制度資金等を活用し、安定的な経営が出来るように努めるとともに、飼料畑の拡大や放牧地の整備を行いたいと考えています。



渡島芳臣議員

議員 高齢者の生きがい支援について

1.「寄り合い処せとつち」の利用方法を伺います。

町長 利用時間は、午前8時30分から午後5時まで、

っています。見守り支援活動として、介護保険による訪問介護サービスや通所サービスなどケアマネージャーが調査し、適正に行っております。

議員 3. 高齢者の生きがい支援として、新たな事業導入の計画を伺います。

町長 高齢者の生きがい支援対策として「高齢者元気度アップ・ポイント事業」を検討しております。

この事業は、各種介護予防事業の運動教室に参加した方、健康づくり・健診受診率のアップを図っていた方、ボランティア活動を通じた地域貢献活動や社会活動に参加した方にポイントを付与し、商工会の商品券に交換できるというものであります。

議員 観光振興について

町内外のヨット・クルーザー等が入港できるマリナー整備計画の進捗状況を伺います。

町長 ヨット・クルーザー等が入港できるマリナー施設整備については、「強い水産業づくり交付金事業」にて、瀬久井地区にヨット・クルーザー等が停泊できるマリナー整備を関係機関に要望して参ります。

議員 清水運動公園整備について

テニス試合進行上必要な管理棟、カベ打ち施設の整備計画を伺います。

教育長 管理棟の規模、予算的状况を調査し、今後の活用方策等について詳細協議しながら進めて参ります。

議員 **加計呂麻留學制**
度について

加計呂麻留學募集条件及び募集方法を伺います。

教育長 加計呂麻に留學し、地域の人々との触れ合いを通して子供たちの豊かな人間性を育成し、学校及び地

域の活性化を図ることを目的としています。募集方法につきましては、町の広報誌及びホームページへの掲載、小中学校長への制度説明であります。今後は、さらに充実した広報活動を実施して参ります。

町内小中学校児童生徒との連携がなくなるなど児童生徒への計り知れない影響と、本町の教育に甚大な影響を及ぼすものと認識しております。

なった場合の本町教育に与える影響を伺います。



鎌田 愛人 議員

議員 **まちづくりについて**

一、魅力ある古仁屋高校について

① 古仁屋高校が廃校となった場合の本町に与える影響（財政面、経済面の損失額）を伺います。

② 古仁屋高校が廃校と

町長 ① 財政面では教職員の町民税約1060万円、普通交付税2000万円、それぞれ減額となり、経済面では教職員の飲食費等で3628万円減額、保護者の下宿代等1億2960万円の負担増となり概算で総額1億9648万円に上るものと思います。

教育長 ② 高校教育を受ける、

けられない生徒がでてくる、

議員 二、2012年度末期切れとなる、離島振興法の改正に伴う「離島活性化交付金の創設」「離島特区制度」への今後の取り組みについて伺います。

町長 「離島活性化交付金の創設」「離島特区制度」については奄美群島12市町村で取り組んでいる「奄美群島成長戦略ビジョン」等の会議の中で検討協議してまいります。

議員 **議会からの意見**
(文教厚生常任委員会関係)について

① 「高齢者の生きがい

対策(社会参加型)」について

② 豪雨時の「古仁屋小学校周辺の排水対策」について

町長 ① 高齢者の健康づくりや介護予防の促進、社会参加活動を通じた生きがいづくりを推進し、同時に地域活性化を図ることを目的とした「高齢者元気度アップ・ポイント事業」の実施を検討しております。

町長 ② 鹿兒島県大島支庁瀬戸内事務所へ要望書を提出し、説明を受けたところ、瀬戸内事務所として新たな調査を検討しているとのこと。



池田 啓一 議員

議員 **町づくりについて**

1. 町職員の人事・採用にあつては条件・基準はあるのかを伺います。

町長 人事異動については、特に条件・基準はありません。採用については、「瀬戸内町職員の任用に関する規則」に則り、18歳から30歳までの方で、県町村会の統一職員候補者筆記試験、口述試験、身体検査等の競争試験による採用と医師、獣医師、保健師等の選考による採用となっております。

〇その他の質問
・瀬戸内町青少年育成基金への町費からの積立について
・清水運動公園グラウンドの抜本改修について
・給食センターの建設用地確保について

議員 2. 地域コミュニティ職員の活動をお聞かせ下さい。

域を解消できるよう取り組んで参ります。

被害を被り、災害復旧事業費は大幅に増大しました。公共事業の予算の確保

については、既存の国庫補助事業や県補助を有効活用し、併せて交付税措置の

町長 地区コミュニティ担当職員は、町民誰もがまちづくりに参画いただくための

議員 4. 町の産業の振興策を示して下さい。

① 漁業について

② 公共事業について

の第一歩とし、地域で話し合い、触れ合いながら、ニーズの把握や情報提供に努めるものです。

町長 ① 漁食普及活動や地元水産物の販売促進、水産物の自給率向上を目指し、

漁業者の生活安定に向け漁協と連携を取りながら推進

議員 その活動が見えない。素晴らしい要綱も出来ていますが、要綱とおりに動いて頂きたい。

また、さらなる漁場環境保全に努め、更に加工開発を推進し、より生産性の高い安定した水産業の振興策を図るように努めたいと考えています。

○その他の質問
★農業・林業・商業の振興策について

議員 3. せとうちF.Mの現状と今後の計画を伺います。

また、さらなる漁場環境保全に努め、更に加工開発を推進し、より生産性の高い安定した水産業の振興策を図るように努めたいと考えています。

町長 嘉徳地区のミニFM放送施設の整備が終了し、

現在は嘉鉄・蘇刈・伊須方面に着手していますが、今後出来るだけ早く難聴地

② 各種公共事業により地域経済は、大きく支えられてきたと考えます。近年は、3年連続の集中豪雨・

暴風雨災害により多大の

委員会活動

第3回定例会では、総務経済常任委員会（向野 忍委員長）、文教厚生常任委員会（鎌田 愛人委員長）、災

害に強いまちづくり調査特別委員会（岡田 弘通委員長）、議会運営委員会（林健二委員長）に付託されて

いた案件に対しての委員長報告がなされました。（要旨は次のとおりです。）

総務経済常任委員会

所管事務調査

『デイゴヒメコバチ撲滅の取り組みに関する調査』

本町のデイゴの木は、デイゴヒメコバチにより甚大な被害を受け、危機的な状況にあるので、駆除方法等を調査し、本町の重要な観光資源の保護等を図る目的として、沖縄県竹富町を調査しました。

主な内容は、次のとおりです。

デイゴヒメコバチは、平成17年5月に石垣島で確認され、以後、各地に被害が拡大しました。体長1.6mmの虫でデイゴの若い葉や茎に寄生して虫こぶを形成

し、寄生密度が多いと葉を落葉させ、場合によっては枯死に至る。

平成21年11月、竹富島の種子取祭（タナドウイ）で、世持御嶽（ユームチウタキ）のデイゴが枯れ、駆除にあたり竹富島の島民や出身者で実行委員会を立ち上げ、薬剤購入費用として、竹富公民館より210万円を借り入れ、樹幹注入の作業は、島民らがボランティアで行い、平成23年には、デイゴが約6年ぶりに開花したとのことでありました。

委員より、「駆除方法は薬剤の樹幹注入のほかか試みているか、老木や巨木には効果があるか。」との質疑に対し、「樹幹注入のみであり、巨木に樹幹注入の駆除作業をして効果があった。」とのことでした。

竹富島では、平成22年1月から平成23年3月までの



青々と葉が生い茂り、樹勢が回復した竹富島のデイゴの木

1年余、ヒメコバチ駆除活動を薬剤購入費用集めから注入作業まで全て島民のボランティア活動で行った結果、その住民活動が花開き、約6年ぶりに島のデイゴのほとんどを開花させていました。本町は、平成20年、22年、23年と合計1591万3千円の駆除費用をかけているが、被害木の再生、開花には至っていないのが現状である。

以上の調査を踏まえ、次の意見を町当局へ提出した。

『「デイゴヒメコバチ撲滅の取り組みに関する調査」意見』

1. 石垣島や竹富島等においては、樹齢200〜300年の大木、老木にも樹幹注入を施し、樹勢が回復し開花が見られたとの結果である。本町においても早急に情報収集を徹底し、樹幹注入と地上散布、その他の駆除方法との比較実験を行い、効果ある駆除方法の確立を図りたい。

2. まちづくり観光課だけでなく農林課との連携を密にし、竹富町等の先例地や

国・県・大学及び関係機関と積極的に情報交換し、駆除体制の早期確立を図りたい。

3. ヒメコバチ駆除に対する補助事業の継続的な予算確保及び拡充を図りたい。

4. 町内のほぼ全域のデイゴ（482本）が被害に遭い、奄美大島全域に拡大している。本町における一斉駆除のみでなく、他市町村と連携を取りヒメコバチ撲滅に向け鋭意努力されたい。

ち11項目を予算化したとのことでした。内容については、事務局運営費等2万円。垂水高校補助金（部活動活性化の費用等）80万円。検定試験等補助金（英語、数学、漢字能力、珠算、電卓、簿記検定、家庭科系の検定など10種類に対し、種目一人1回の検定受験料の補助金を支給）82万3千円、計164万3千円とのことでした。

学科の配置（特に水産関係学科）について調査しました。県としては、地域における高校の実情を踏まえ、個別に検討していく方針であり、今後は、募集停止は行わず様子を見るとのことでした。

水産関係学科については、実習船や卒業生の出口の問題等もあり、水産高校を維持することも難しいとのことでした。また、外から入学させるにしても、町の財政的支出もある。県としても見通しが立たないと財政的な支援はできないとの考えが示されました。

文教厚生常任委員会

所管事務調査

『魅力ある古仁屋高校づくりに関する調査』

魅力ある高校づくりのための施策等を調査し、古仁屋高校の存続・活性化を図ることを目的として、垂水

魅力ある古仁屋高校づくりに関する調査』

魅力ある古仁屋高校づくりに関する調査』

魅力ある垂水高校づくりの5つの柱と振興・支援策について調査しました。

平成24年度の振興・支援策の取り組みについては、支援策を46項目設定し、う

「島前高校魅力化プロジェクト」について、島根県隠岐諸島（中ノ島）にある島根県立隠岐島前高校を調

市、県教育委員会、島根県海士町等を調査しました。

主な内容については、概略次のとおりです。

●垂水市

魅力ある垂水高校づくりの5つの柱と振興・支援策について調査しました。

●鹿児島県教育委員会

大島学区における高等学校の適正な配置の考え方と

「魅力ある垂水高校づくり5つの柱」の基本方針として、①学校のイメージアップ。②進学・就職の充実。③未来を担う人材づくり。④垂水市の地域振興。⑤垂水高校と関係団体との連携

島根県海士町（島根県立隠岐島前高等学校）

查しました。(今回は、古仁屋高校の教頭先生に同行を願いました。)

○魅力化プロジェクトの背景と経緯

島前高校は急激な少子化の進行を受け、生徒数が激減、島根県の高校統廃合の基準である「入学者21人」のボーダーラインを切る可能性が出てきたことや、廃校になった場合、地域文化や行事の維持困難など高校の存続は島の存続危機に直結する問題であるとの強い思いが背景にあったこととでした。

魅力化へのスタンスとし



島根県立隠岐島前高校を調査する文教厚生委員

て、「存続」を目指すと存続しない。生徒が「行きたい」、保護者が「行かせたい」、地域が「活かしたい」と思う

「魅力ある学校づくりを目指す」とし、次の3つの主な指針を掲げたこととでした。

- (指針1) 一人ひとりの力を最大限に伸ばせる教育環境の整備
- (指針2) 地域の未来をつくる人材の育成
- (指針3) 全国からも意欲ある生徒を募集

○海士町の予算
5人の町職員を高校に派遣、人件費を含め6362万9千円の予算を計上し、財源は補助金、過疎債、特別交付税などから捻出、一般財源からの支出は8255万3千円であるとのこととでした。
このプロジェクトによって、島前内の入学者も増え

たが、島外からの入学者が平成24年度には23人と急増しているとのこととでした。

●本町及び古仁屋高校の取り組み

- ・本町においては、「修学旅行助成事業(1人2万円の助成)」、「部活動活性化助成事業(年間50万円の助成)」、「生徒通学費等補助事業(通学距離6kmを超える生徒が対象)」、「大学入学一時金貸付基金事業(貸付金一人100万円の毎年度3人以内)」。
- 古仁屋高校振興対策協議会の設立等の取り組みについて。

・古仁屋高校からは、教員加配を要請し実現したこと。基礎学力定着のための取り組みや進路指導の個別指導の徹底での実績、広報活動の充実などの取り組みについて調査を行いました。
以上の調査を踏まえ、次の意見を町当局へ提出した。

『魅力ある古仁屋高校づくりに関する調査』意見

1. 「高校選択の理由」等について、町内全ての中学生とその保護者へのアンケート調査を実施し、その結果の分析をされたい。
2. 古仁屋高校の「良いところ・改善すべきところ」等について、古仁屋高校生徒その保護者へのアンケート調査を実施し、その結果を分析されたい。
3. 「大島高校を選択した理由」等について、大島高校へ進学した本町出身生徒とその保護者(町役場職員)へのアンケート調査を実施し、その結果を分析されたい。
4. 「広報せとうち」を活用し、古仁屋高校の現状を広く町民にアピールされたい。
5. 部活動の充実のために、これまで以上の支援・協力を図られたい。
6. 部活動を通しての古仁

屋高校と町内中学校の連携・交流が図られるよう取り組みられたい。

7. 古仁屋高校の振興に係わる予算の増額を図り、その財源(国県補助事業、過疎債等)確保に努められたい。

8. 瀬戸内町名誉町民「瀬田良市」大学入学一時金貸付基金の一部を有効活用し、古仁屋高校の振興を図られたい。

9. 各種検定受験・模試受験等の費用についても、町補助金の予算化を図られたい。

10. 役場庁内に古仁屋高校の振興対策に係わるワーキンググループを設置し「鹿児島県立古仁屋高等学校振興対策協議会」との緊密な連携を図り、当協議会の円滑な運営に努められたい。
以上の意見を踏まえ、古仁屋高校の2クラス維持に最大の努力をされたい。

災害に強いまちづくり 調査特別委員会

『災害に強いまちづくりに
関する調査』

本町は、平成22年、23年、
そして本年6月と3年連続
の集中豪雨により甚大な被
害を受け、改めて地域や防
災対策を見直し、災害に強
いまちづくりに取り組むこ
とが本町の最も優先すべき
課題であるとのことで、大
島支庁瀬戸内事務所、県危
機管理防災課、霧島市、湧
水町、県防災研修センター
等を調査をいたし、次の意



湧水町にて調査を行う
特別委員会委員

見を町当局へ提出しました。

『災害に強いまちづくりに
関する調査』意見

1. 災害応急対策への備え
- ①災害時の情報伝達体制の整備促進。②孤立集落防止対策及び災害時要援護者支援体制。③ハザードマップの作成と海拔表示板等の設置。④避難所の整備、機能の充実等に早急に取り組むこと。
2. 住民の防災活動

- ①自主防災組織の育成・強化。②防災教育等の充実。
- ③災害時の協力体制の充実・拡充等に努めること
3. 災害未然防止のための施設整備

- ①河川改修・治山事業・防災対策関連事業等の整備促進に努めること。②河川・側溝等の土砂除去に積極的に取り組むことと古仁屋市街地の浸水対策について、国・県補助事業等研究調査

に努めること。③用地担当
職員の増員・充実等に積極
的に取り組むこと。

4. 災害復旧の支援対策に努めること。
5. 災害に強い電気通信施設整備を図るよう電気通信業界へ強く要請していただ

議会運営委員会

『議会の広報等に関する
調査』

私たち地方議会が、会議
の様子を住民に公開し、も
っと議会を知って頂くこと
という事から、「議会のイン
ターネット中継」について、
さつま町、奄美市を調査し
ました。

両市町ともインターネッ
ト中継開始後の成果として、
・議員、当局共に程よい緊
張感が生まれた。

きたい。

以上、町防災計画を早急
に見直し、具体的な実施計
画の策定を行い、これを推
進するための防災・減災対
策等の検討委員会等も設置
し、災害に強いまちづくり
を一層推進すること。



さつま町にて調査を
行う議会運営委員

・市民や職員だけでなく、
島外の方も本会議を見る事
ができるようになった。

・職員が、自ら作成した答
弁書の行方を見ることがで
き、議会に職員全員が参加
できる仕組みができたこと
でした。

以上の調査を踏まえ、次
の意見を町当局へ提出した。

『議会の広報等に関する
調査』意見

1. より開かれた議会を目指し、本町においても議会のインターネット中継を行うための、新たなシステムの構築を図られたい。
2. ITを活用した情報公開・情報発信を行う事により、本島側と加計呂麻島・請島・与路島との情報格差の是正を図られたい。
3. 新たなシステムを構築する際には、議会側と十分な協議をされたい。

編集後記

◇今回号を以て、私達編集委員の任期も終了となります。
◇議会の状況を少しでも皆様にお伝えできればとの思いで、紙面づくりを心掛けてきました。次号以降も、ご愛読下さいますよう、よろしくお願ひします。

◇4年間ありがとうございました。(編集委員一回)